春 岡 村 の 伝 説

キツネの伝説と新留稲荷

春岡村の郷土史『思い出の春岡』の著者銭場佐一郎さんのお父さんは、明治２０年頃まで今の春野中学校あたりにもキツネがいて、ときどき網で捕まえたり、キツネに化かされる人もかなりいた、と話していたそうです。このシリーズの３回目でキツネに化かされた村人の話を紹介しましたが（東三番街のホームページで読むことができます）、その中に、

…岩槻からの帰り道、遠藤豊吉さんが小雨の中、蓮田街道で素敵な美人が縞の着物を着て、蛇の目傘をさして来るので目をまるくして見ると、その足元から毛が一杯生えているので、おどろいて畑の中を夢中で走り続けたら、野狐の住んでいる「新留稲荷」のところに出てしまった～

というお話がありました。『おじいさんおばあさんに聞く岩槻』という本の中の『簑輪の昔話』にも「新留稲荷」が登場します。それによると、

…昔、深作村から簑輪村への道は、田や畑を通り、「新留稲荷」の下を回り込んで急な坂道を上りました。お稲荷さんの森一帯は「まつやま」と呼ばれていて松や樫がうっそうと茂り、若い衆でもその道を通るのはおっくうなほどでした。簑輪村に入ると団子やおでんを商う家があって、深作村の人は買い物やほね休めに遊びに来たりしていました～

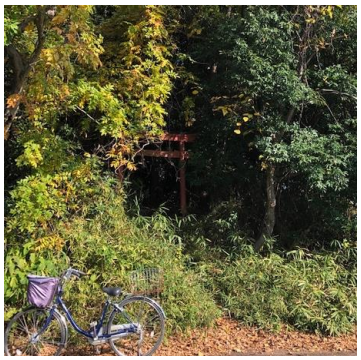
…深作村の人が岩槻でお酒を飲んでの帰り道、お稲荷さんの森を通り過ぎ、ソバ畑の中の道を歩けども歩けども深作村の入口に着かず、いつまでたってもお稲荷さんの所です。行けども行けども田んぼの道から抜けられません。あたりが白み始めてようやく深作の家にたどり着きました。それからというもの「新留稲荷にまやかされた」といううわさが広まりました～

さて、この「新留稲荷」は実在するのでしょうか？

荒井産業の遺構（？）の近くの農家の方に尋ねたところ、子供の頃「こんこん様」と呼んでいたお稲荷さんが、岩槻の西原中学校の近くの小山にあった、という情報をもらいました。さっそく行ってみました。綾瀬川の風間橋を渡って右に曲がり、122号線の下をくぐり抜けると左に西原中学校、手前にこんもりとした森がありました。森の中の赤い**鳥居**をくぐり祠の中をみれば、**「新留稲荷」**と彫られた石造物が！祠の前には壊れた石の狐が鎮座しています。周りは今もうっそうと暗く、お話の中に出てくる「急な坂道」をのぼると京料理「ほそい」がひっそりとあります。

（東三番街　平山由喜）

鳥居→



←**「新留稲荷」**の石造物

（春野図書館では２月に遊水地と丸ヶ崎新田の自然をテーマに展示を企画しています。野鳥や野草、風景などの写真を提供頂ける方がおられましたら春野図書館平山まで）